

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ新生		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日		2025年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 4人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 16日		2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・5領域支援の内容に即して、発達段階を専門的な視点を持って見ることができる。	・子どもの体の動きや求めていることから発達の段階を見極め、必要な支援の提供ができる。 ・子どもがやりたいと思う動きがある遊びを思い切りできる環境を用意し、やり切っていくことで発達を促すことができる。 ・小集団でルール遊びを意図的に取り入れ、子どもの特性や発達段階に応じた療育を行っている。活動の中で、指示理解や感情表現への声かけ、体を動かす遊びや生活面へのかかわりを組み合わせてバランスよく支援ができるように意識している。	・職員全員の専門性の向上を研修やOJTを通して図っていく。 ・、職員から療育的視点で発達に繋がる遊びを提供したり、職員は子どもたちにできたことを具体的に伝えて褒め自信につなげたりして、心と体の両面からいろいろな刺激を入れられるように日々支援内容を強化していく。
2	・多機能事業所の為、放課後等デイサービスへ移行したあとも継続して支援が提供できる。	・就学に伴う環境の変化への対応など、同じ場所で支援を継続することで安心して通うことができる。親以外の信頼できる職員に気持ちを打ち明けられる関係づくりを大切にし、安心して過ごせる環境を心がけている。又、仲間との関りの中で人間関係を学び、職員が細やかに間に入ることで社会性の成長へ繋げることができる。	・就学に向けての情報提供を保護者様にしたり、移行に関してのご相談に乗ったりできるようにしていく。
3	・日々のミーティングや月一回のランチミーティング・法人内の別事業所との定例会議など、支援内容や制度について情報共有や相談できる場所がある。 ・毎月様々な研修を行い職員のスキル向上を図っている。	・毎月最新の研修を受けることで常に新しい情報で支援に向かうことができる。 ・職員自身の行動の振り返りを行うことができる。 ・職員は必要な研修を必ず受講している。 ・話し合いの中で支援の共有をしていき、同じ方向を向いて子どもに向き合うことができる。	・外部研修や連絡会へ積極的に参加していくことで、常に情報をアップデートしながら、他事業所との交流も回りいろいろな視点を持った支援の情報を入手し、事業所に持ち帰ることにより良い支援ができるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の方と交流する機会が少なく、事業所の周知があまりできていないように感じる。	・地域のイベントへの参加や避難訓練のお知らせなどが不十分な点。	・地域のイベントへの参加を積極的に行い、事業所について知ってもらう機会を設ける。 ・避難訓練などのお知らせをさらに強化し、災害時にお互い助けあえる関係性を築いていく。
2			
3			